

第 1 号様式（第 4 条関係）

屋外における火災予防について

※ まつり等のイベントを行うには、次のことに注意してください。

- 1 火気使用場所には、消火器を用意してください。
- 2 ガスコンロや焼き鳥用コンロ等の移動式コンロを使用するときは、可燃物から火災予防上安全な距離を取り、距離が取れない場合は不燃材料で有効な囲い等を設けてください。
 - ガス・電気調理器具 周囲 15 cm以上、上方 1 m以上
 - 固形燃料(炭・練炭等)使用するコンロ 周囲 30 cm以上、上方 1 m以上
- 3 フライヤー等の器具を使用しているときは、その場を絶対に離れないようにしてください。
- 4 プロパンガス等のボンベは、転倒しないような措置をしてください。
- 5 プロパンガス等のボンベからコンロまでのゴムホースは、亀裂や劣化のないものを使用し、外れないようにホースバンドでしっかりと固定してください。

また、ゴムホースの長さは、5 m以内としてください。
- 6 プロパンガスボンベ(10 kgボンベ以上)からコンロ等(火気)までは、2 m以上距離を取ってください。
- 7 発電機の燃料(ガソリン)の保管は、専用容器(金属製)を使用し、40ℓ未満(指定数量の5分の1未満)とし、給油する場合は、必ず発電機等のエンジンをとめてから給油してください。

また、ガソリン等の専用容器の管理及び使用は、取扱説明を厳守し、十分注意して使用してください。
- 8 可燃性ガスの取扱いは、ガスが滞留するおそれのない場所で行い、火気には十分注意してください。
- 9 カートリッジ式ガスボンベを使用する場合は、高温となる場所に置かず、使用した缶は、必ず各自で持ち帰り適切に処分してください。
- 10 電気設備の設置については、電線から装飾品等の距離を十分確保し、出火や感電のないよう安全に使用してください。

イベント会場等におけるガソリンの貯蔵・取扱い時の留意事項

《ガソリンの特性》

- ・ 引火点は -40°C 程度と低く、極めて引火しやすい。
- ・ 揮発しやすく、その蒸気は空気より約3～4倍重いので、滞留しやすく可燃性の雰囲気は広範囲に形成されやすい。
- ・ 電気の不良導体であるため、流動等の際に発生した静電気が蓄積しやすい。

《貯蔵・取扱い時の留意事項》

- ・ ガソリンを取り扱っている周辺で火気や火花を発する機械器具等を用いない。例えばガソリンを取り扱っている場所から1m離れた場所に置かれた洗濯機で火災に至った事例や、火気や火花がなくても人体に蓄積された静電気で火災に至った事例が報告されており、ガソリンを取り扱う場合は細心の注意を払わないと容易に火災に至る危険性があります。
- ・ 静電気による着火を防止するためには、金属製容器で貯蔵するとともに、地面に直接置くなど静電気の蓄積を防ぐ必要があります。また、消火器を必ず準備しましょう。
- ・ ガソリン容器からガソリン蒸気が流出しないように、容器は密栓するとともに、ガソリンの貯蔵や取扱いを行う場所は、火気や高温部から離れた直射日光の当たらない通風、換気の良い場所とすることが必要です。特に夏期においては、ガソリン温度が上がってガソリン蒸気圧が高くなる可能性があることに留意しましょう。
- ・ 取扱いの際には、開口前の圧力調整弁の操作等、取扱説明書等にかかれた容器の操作方法に従い、こぼれ・あふれ等がないよう細心の注意を払いましょう。万一流出させてしまった場合には、少量であっても回収・除去を行うとともに周囲の火気使用禁止や立ち入りの制限等が必要です。衣服や身体に付着した場合は、直ちに衣服を脱いで大量の水と石けんで洗い流しましょう。
- ・ ガソリン使用機器の取扱説明書等に記載された安全上の留意事項を厳守し、特にエンジン稼働中の給油は、絶対に行わないようにしましょう。



ガソリンの貯蔵に適した容器の例
(金属製容器であることが必要)



ガソリンの貯蔵に適さない容器の例
(樹脂製容器は火災危険性が高い)